



D-make

**DevRelチーム
キックオフ**

株式会社 ディーメイク

DevRelとは

Developer Relations (DevRel)とは、ソフトウェア開発者や技術者との関係構築を目的とした業務です。これには、開発者コミュニティの形成と支援、製品や技術のアドボカシー(支持・推奨)、フィードバックの収集と製品改善への反映などが含まれます。DevRelの担当者は、しばしばDeveloper AdvocateやCommunity Managerと呼ばれ、製品のエバンジェリスト(熱心な支持者)としての役割も担います。

この役割には多面性があり、対外的にはコミュニティイベントの企画・運営、技術コンテンツの作成、開発者向けの教育やサポートなどが含まれます。一方で、対内的には製品チームへのコミュニティからのフィードバックの伝達や、市場のニーズに基づいた製品の方向性の提案などを行います。

by ChatGPT

DevRelとは

世界的なDevRelの流れ

DevRelは、テクノロジー業界のグローバルな拡大とともに、重要性を増しています。ソフトウェア開発の急速な進化と共に、開発者コミュニティとの関わりは、技術製品の成功に不可欠な要素となってきました。世界的に見ると、多くの企業がDevRelの専門チームを設置し、その規模を拡大しています。

1. **オープンソースの影響**: オープンソースプロジェクトの成功がDevRelの重要性を高め、GitHubやGitLabなどのプラットフォームが中心的な役割を果たしています。
2. **クラウドサービスの台頭**: AWS、Google Cloud、Microsoft Azureなどのクラウドサービス提供者が、DevRelを通じて開発者エコシステムを拡大しています。
3. **技術教育の普及**: Udemy、Courseraなどのプラットフォーム上でDevRel担当者が技術コースを提供し、教育を通じて製品の普及を図っています。
4. **多様なコミュニケーションチャンネル**: ブログ、ポッドキャスト、YouTube、Twitchなど、さまざまなチャンネルがDevRel活動の場として活用されています。
5. **リモートワークの普及**: COVID-19パンデミックをきっかけに、リモートイベントやバーチャルカンファレンスが普及し、DevRelの活動範囲が広がっています。

by ChatGPT

DevRelとは

日本における広がり

日本でもDevRelは徐々に認知されつつあり、国内外の多くのテクノロジー企業がDevRelに注力し始めています。特に、国際的な市場を目指す日本のスタートアップや、グローバル企業との競争に対応する大手企業でのDevRelの必要性が高まっています。

1. **コミュニティイベント**: Japan Android GroupやJAWS-UG (Japan AWS User Group)など、特定の技術にフォーカスしたコミュニティイベントが盛んに行われています。
2. **国内カンファレンス**: RubyKaigiやDroidKaigiなど、国内開発者コミュニティが主催する技術カンファレンスが増加しており、DevRelの活動の舞台となっています。
3. **グローバル企業の影響**: Google, Microsoft, Amazonなどのグローバル企業が日本でDevRel活動を行うことで、国内のテック企業にもその影響が波及しています。
4. **教育との連携**: プログラミング教育の普及とともに、DevRelは教育機関や学生とのつながりを深め、技術の普及と才能の発掘に貢献しています。
5. **リモート参加の促進**: リモートワークの普及により、地理的な制限なく日本からも世界のDevRelイベントに参加しやすくなっています。

このように、DevRelは世界的なトレンドとともに日本国内でも広がりを見せており、今後さらに重要性を増していく分野と言えるでしょう。日本固有のビジネス文化やコミュニケーションスタイルを踏まえつつ、グローバルなDevRelの流れを取り入れる動きが進んでいます。

by ChatGPT

チーム発足の背景

現在、会社の課題として

- エンジニア採用を増やしていきたい
- 自社サービスの認知度を上げたい(LPへのアクセス数アップ、売上アップ等)

また、エンジニア組織として、

- 外部の開発者との関わりが少ない
- 外部の開発者に自社の取り組みなどを発信できていない

などがあります。

これらの課題を少しでも克服できるように、個人々でなにかするのではなく、組織として活動できるようにDevRelチームを発足します。

目的

一般的には(ChatGPTに聞くと)以下のような目的があります。

1. **コミュニティ構築と育成**: 開発者が情報を共有し、協力し合える強固なコミュニティを作り上げることで、製品や技術へのロイヤリティを高めます。
2. **製品啓発と採用促進**: 技術的なメリットやユースケースを伝えることで、製品や技術の理解を深め、その採用を促進します。
3. **市場と製品のギャップの識別**: 開発者のニーズを理解し、製品チームへのフィードバックとして機能します。これにより、製品の方向性を調整し、市場フィットを向上させます。
4. **ブランドの信頼と権威の構築**: 一貫した高品質の技術情報の提供とサポートを通じて、ブランドの信頼と専門性を構築します。

ディーメイクとしてはとりあえず以下を目的とします。

- エンジニア採用の促進
- 自社ブランド(サービス、エンジニア組織)イメージアップ
- エンジニア自身の市場価値向上

活動内容

一般的には(ChatGPTに聞くと)以下のような活動内容があります。

1. **イベントの企画・運営**: ハッカソン、ワークショップ、セミナーなどの開発者向けイベントを企画・運営し、製品の認知と理解を深めます。
2. **コンテンツの作成と配信**: ブログ投稿、チュートリアル、デモ、ウェビナーなどの教育コンテンツを作成し、技術的な知見や最新情報を共有します。
3. **コミュニティサポート**: フォーラム、SNS、開発者向けQ&Aサイトなどでの質問に答え、技術的な問題解決を支援します。
4. **フィードバックの収集と製品改善**: コミュニティのフィードバックを収集し、製品チームに提供して製品の改善につなげます。
5. **エンジニアリングとの連携**: 開発者の視点を製品開発に取り入れ、エンジニアリングチームと協力して新機能や改善を推進します。

活動内容

ディーメイクとしては以下の活動をしていきたいと思っています。(随時振り返り変更が入る可能性はあります)

- **外部コミュニティへの参加**: まずは外部のデベロッパー向けイベントや勉強会・セミナーに参加を促進します。
- **ブログでの発信**: 自社ブログで情報発信を行います。
- **YouTubeの活用**: 自社サービスについての動画や勉強会などの動画を配信します。
- **Connpass等でのイベント開催**: なにか
- **外部イベント参加**: 外部イベントに会社 (DevRelチーム) として参加します。
- **X (Twitter) での発信**: 上記などを随時発信します。

まとめ

がんばりましょう